

くらしと営業が大変な時に負担を押しつけるな!!

府政の大転換で 「カラ水」押しつけストップ 水道料金の見直しを!



府営水道の宇治系・木津系・乙訓系の3浄水が接続され、工事費用などを水道料金に反映させることが検討されています。
浄水場の接続、地震対策、老朽化した宇治の導水管の新設など総額は150億円以上。「カラ水」の料金18億円を押しつけられている市町水道は、さらに大変な状況になり、料金値上げにつながります。

府営水を受水し、家庭へ供給している10市町水道

宇治市、城陽市、八幡市、久御山町、京田辺市、木津川市、精華町、向日市、長岡京市、大山崎町

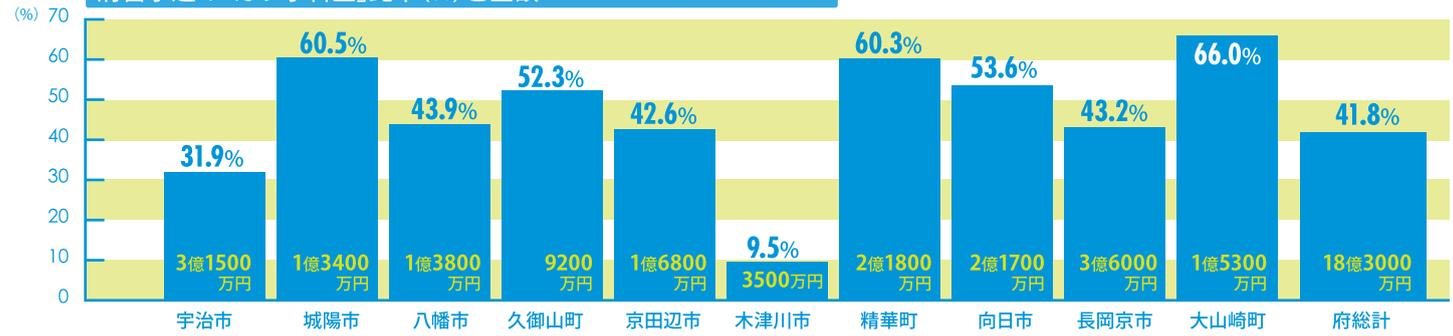


「カラ水料金」 年18億円の府民負担軽減を

府は受水市町と「基本水量」を決めて、使用しなくてもその料金を徴収しています。「カラ水料金」ともいえるこの料金は、府営水道を導入している10市町全体で年18億円にものぼります。未使用水量は約42% (グラフ参照)で、これが市町の水道の経営を圧迫し、料金的大幅値上げにつながり、住民負担が増大しています。

そもそも府営水道条例には、各自自治体が「毎年の必要水量を府に申請し、協議して決定する」と書いています。府として基本水量の見直し協議に応じるのは当然です。

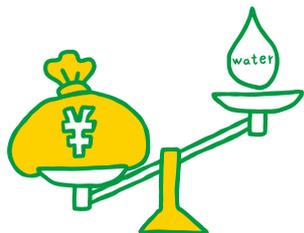
府営水道の「カラ水料金」比率(%)と金額 [使わずに府に料金を払った府営水]



高い

木津系 水道

府営水道料金の値下げを!



市・町に高い水道料金を押しつけながら 府営水道の会計は黒字

府営水道は、市町水道へ水を供給して料金を受け取っています。当然、可能な限り安価で安全な水を提供する義務があり、市町の水道を圧迫するようなことがあってはなりません。ところが府営水道はこの5年間、毎年3～6億円の黒字、さらに府の一般会計に18億円以上も貸し出しています。一方、市町の水道会計は火の車の状態が続いています。



市町の水道会計、府民生活は大変

木津浄水場系水道は、京田辺市、木津川市、精華町の2市1町に供給されています。関西学研都市の建設にともない整備が進められてきましたが、開発協力金などで支えてきた市町の水道も行き詰まり、厳しい状況に置かれています。ただでさえ高い府営水道が、これ以上値上げされれば大変です。精華町議会では、「カラ水の見直し」を求める決議が可決されました。

府の負担とムダの削減で何としても値上げをストップさせましょう。

3浄水場の接続費用など150億円 転嫁されれば市町水道は大変

現在、府営水道の宇治系・木津系・乙訓系の3浄水を接続し、工事費用などを水道料金に反映させることが検討されています。導水管更新・耐震化工事を含め150億円以上かかり、市町水道への負担は甚大です。



解決するために

新規投資は市町・府民への負担増でなく、府の一般会計で負担を

市町では、一般会計から水道会計を補填しているところもあります。

京都市を除く府民の約7割、65万人が利用している府営

水道、そのライフライン確保の事業に、府の一般会計からの負担は当然のことです。

ムダな水の確保、天ヶ瀬ダム再開発から撤退を

ムダを省くことも重要です。府は、38億円かけて「天ヶ瀬ダム再開発」で新たな水を確保するとしていますが、最近公表された「国立社会保障・人口問題研究所」の人口予測と府の人口予測は大幅に食い違い、水が余ることは明らかです。(右のグラフ参照)

人口の減少、温暖化対策の推進、省エネ、ライフスタイルの変化と、今後、水需要が増加することは考えられません。府には未利用の水利権もあり、ムダな天ヶ瀬ダム再開発から撤退すべきです。

